

総合心療センター 作業療法室

室長 山内 学

当部門について

今年の作業療法室は、引き続きコロナ禍における運営でした。まだ、時間や空間や種目などに制限がかかっています。自由度や活動的に表現することが出来にくい状況でのプログラム運営が継続しています。そのことで、コミュニケーションのズレや対象者からもストレスを感じるものが伝わってきています。個別対応も多くなってきています。そのために時間調整が必要でありますが、カバーしきれっていない現状です。対応したことや課題など情報共有することも心掛けています。アセスメント能力のスキルアップとして、対象者の表現されていることについてのスタッフでの検討する機会も増えてきました。「今ここで」そして先読みすることに短時間で焦点化していくことの繰り返しにて対象者理解も進んできていることを実感してきています。

入院環境における早期からの作業療法の導入や継続しての参加による活動性の向上はできています。しかし、集団力動を用いたプログラムや心理教育的なプログラムや疾患別治療プログラムの運営を入院環境におけるコロナ発生の経験においては制限と緩和の間で葛藤が続いています。外来作業療法においては、対象者の増大が継続しています。定着への対応はできていますが、次のステップへの移行が難しいことも課題として挙がっています。

経験年数のあるスタッフ構成のため間接業務も増えています。その役割に中での管理や環境調整や準備などに時間を取られています。運営時間を削ることなく実施することを優先させています。スケジュール化や他スタッフや他部署のフォローなどもしっかりできるようになってきています。もちろん、他部署のフォローからもフォローされています。

今後も、精神科急性期治療による回復度を上げることについても他部門との連携を強化していきます。心理教育や集団力動を用いたプログラムの運営にも積極的に実施していきます。そのためにも、個々のスキルアップは必須だと考えています。